

step up

2025 校内研修通信

1年生図工でのチャレンジ授業です。単元は、「ざいりょうからひらめき(石ころアート)」です。海洋教育の一環として、「磯遊び」で拾ってきた海岸の石を使って「石ころアート」をしました。本時は、自分の作品について、材料の活かし方や表し方の面白いところ、工夫しているところを友だちと伝え合う活動です。

ペアで、「質問する人」「答える人」になり、交代で質問をし合いました。交流を始める前に、まず、どんな質問ができるか、確認しました。

【最初の質問】

「何を作ったのですか。」

「最初の質問」は決まっています、それ以外には、先生が、「どんなこと聞きたい？」と聞くと、子どもたちから意見が出てきました。それを、板書しました。

【広げる質問】

- ・何がおすすめですか。
- ・お気に入りは何ですか。
- ・がんばったところはどこですか。
- ・どんな使い方をしますか。
- ・どこにかざりたいですか。
- ・どこが難しかったですか。
- ・だれに見せたいですか。

最初のペアでの交流は、5分間です。どちらが先に質問するかを決めて、交流がスタートしましたが、このペアは、「何を作ったのですか。」の最初の質問のあと、質問をするAさんが、何を質問したらいいのかわからなかったのか黙ってしまいました。答える役のBさんは、「前に、質問書いてるで。」とか「何でもいいよ、聞きたいこと。」と声をかけています。それでも、黙ったままだったので、Bさんは、「先に聞こうか？」と言って、交代しました。Bさんは、黒板にある質問を見ながら、Aさんに、色々と質問をします。Aさんは、小さな声で、答えることができました。

交流のあとは、「教えてくれてありがとう。」とお礼を言っていました。



ペアを変えて、2回目の交流をしました。1回目よりも、子どもたちの声の調子が上がって、少し慣れてきた様子でした。



ペアの子が、たくさん作っているのを見て、いくつ作ったのか数を数えました。
「・・・10、11、えー!!! 個も作ったん？」
「うん。ミャクミャクも作ったで。」
「ほんまや!」
黒板に書いてある質問だけでなく、自然と会話が広がっていました。

「どんな使い方をしますか。」
「遊びます。」
「どうやって、遊ぶん？」
「この食べ物を、『〇〇くん』（キャラクター）が食べるん。」と、一問一答で終わらず、会話のラリーが続くペアもありました。



2回のペア交流のあと、自由に回って、友だちの作品を鑑賞しました。「ちょっと、聞きたいことあるんやけど・・・。」と作った子と呼ぶ姿もありました。

1回目の交流で、黙ってしまっていたAさんでしたが、大勢の友だちに囲まれて、うれしそうでした。自分から、作品について話したり、質問したりすることができていました。

学習の最後は、「友だちの作品を見て、どう思いましたか。」と先生が問いました。「みんな上手に作っていてすごかった。」「たくさん作っていてびっくりした。」と感想が言えました。

授業者より

子どもたちの「伝えたい!」という気持ちを大切に、石ころアートの紹介を行いました。ただ、子どもたちは色々な思いを持って作っていても、自分の言葉で説明することが難しく、どのように活動を進めたらよいのか悩みました。加藤先生からアドバイスをもらい、「広げる質問」を提示することで、言葉に詰まった子どもたちも話を広げることができました。一人ではわからなかったことでも、チャレンジ授業では様々なアドバイスをもらえるので、とてもよいと思いました。また、チャレンジしてみたいです。